

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	長崎大学	整理番号	005
プログラム名称	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	山下 俊一	プログラム コーディネーター	森田 公一
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の負担を軽減するため、最低修得総単位数を 32 単位に減らすカリキュラムの見直しや 3 年次前期から 4 年次後期までの期間中の 6 週間を研修にあて、2 単位とする海外研修の一本化、また、英語のレベルに合わせたクラス編成、リーダーシップ養成の要素を入れた実践的内容、3 年次以降のライティング指導や政策立案スキル教育の導入など、コミュニケーションスキル実習の内容の改訂を行い、更によりプログラムにするための努力が、学生との意見交換を通じて確実に実現されている。 ・昨年度と比較し、グローバルなリーダー像について自分なりの意見を持っている学生が増えていたことは望ましい。 ・支援期間終了後の継続のための予算獲得方法や組織改編について、「グローバルヘルス基金」の立ち上げやクロスアポイントメント制度、海外とのイコールパートナーシップなど、ある程度の具体的見通しが示された。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人学生の数をもう少し増やせばよい。プログラムの広報を更に多様な形で積極的に行う余地があると考えられる。 ・コミュニケーションスキルの授業については、日本人学生の満足度は高いものの、留学生からは、よりプロフェッショナルなプレゼンテーションをするための研究のまとめ方（単に語学ではなくて概念の持ち方のようなこと）の授業を求める声もあった。日本人学生は、講義及び日々のコミュニケーションは英語で行っているようであるが、更に自発的に英語を使用できるようになることが望まれる。 ・グローバルリーダーとは何か、自分のキャリアパスはどのようにして築けるかについて、平成 28 年度より「キャリア支援室」を設け学生達の意識を喚起する環境は改善されてきたが、更に充実させることが望まれる。 			